

令和5年度 自己評価報告書



令和6年4月1日

■ 園の概要

当園は、埼玉県越谷市に昭和47年4月に学校法人として開園しました。

長年、産業道路沿いの「ピンク色の幼稚園」として子ども達の目ひく園舎にて幼児教育を行ってきました。平成25年4月、園舎の老朽化や交通量の多い道路事情を考慮し、よりよい教育環境をめざし川柳町へ移転、新築いたしました。

待機児童の増加という現在の子育て事情を鑑み、「少しでも、地域の子育て環境を良くしたい。」との思いから、保育園部門を設置し「認定こども園」として同年開園致しました。

平成27年「子ども子育て新制度」に伴い、幼稚園部門・保育園部門が統一され、新たなスタートを切っております。

■ 本園における園評価のねらい

学校評価を実施することにより、より良い保育や園行事・園運営の充実に生かしていきたいと考えております。職員の自己評価や、外部の皆様に意見を出して頂くためのアンケート調査を行い、前年度よりも内容の濃い園評価を実施していきたいと思っております。

学園理念

【教育目標】

つよい体やさしい心の子どもに育てる。

【保育目標】

家庭的保育かつ集団生活における教育の中で一人一人がいきいきとした生活を送る。

【経営理念】

子ども・保護者・教職員に対するサービス心の経営。

基本方針

総合的な経験や具体的な活動を通して、情緒の安定した安全な生活を送り、心身の健全な発達を図る。子育て付加事業により、保護者の思いをサポートしながら、子育て環境の活性を図り社会的役割を果たす。

教育目標

- 一、心身共に健康で明るい子ども
- 一、がまん強く、頑張りのきく逞しい子ども
- 一、優しく素直で、思いやりのある子ども
- 一、ご挨拶の出来る子ども

保育の計画性

- 学園理念や保育・教育目標
- 5領域 10の姿の理解
- 指導計画の作成
- 環境構成
- 評価・反省

【目標・取り組み】

- 学年で情報交換をし、計画を立て、事前準備を怠らぬに見通しを持って保育できるようにしていく。
- 保育室の清掃・整頓をし、危険な所がないか確認をする。
- 子どもの姿をよく観察し、1人ひとりに合った保育を心掛け健やかな心に育つような保育をする。
- 5領域や10の姿をを頭に入れ、日々の保育は計画性をもって行えるようにする。
- 保育雑誌や研修から学んだ、色んな素材を使った“感触遊び”を充実・満喫し成長につなげていく。
- 各学年の学年会議に入ったり、年カリ、月案、日誌に目を通し保育の計画の共有と指導を行う。
- 個々の成長に合わせ、遊びながら、発達の流れを考えていく。
- 指導計画では、子ども達にどう育てほしいかをよく考えて記入していく、また、活動内容に応じて導入もよく考えていく。
- 日々の保育に対して、日誌を書く際などに振り返り、良かった点は引き続き行い、反省点は次の日に改善できるようにする。

【よく出来たこと】

- 一人ひとりとよく関わり、子ども達が安心して楽しく過ごす事が出来る保育ができた。
- 子ども達の成長の様子を観察しながら、遊びに取り入れていくことができた。
- 学年で多く関わられるよう計画を立てたり、事前順をしっかり行い、保育にあたることができた。
- 各学年の会議に入り、情報の共有や発信が出来た書類もチェックし必要に応じたアドバイスをを行った。
- 保育士同士、いろいろな素材を研究し、子ども達が驚きや楽しさがみられる素材を提供し、感触遊びにつなげることができた。
- 5領域や10の姿を常に見られるところに用意し、確認する習慣をつくった。
- 子ども達の姿、様子に応じて、活動内容をよく考えて行うことができた。個々に理解力もことなるため、全体に分かりやすく伝えながらも様子を見て個別に対応した。その日のことは、その日のうちに振り返り、反省点などを書き出し、次の日に活かしていけるようにした。
- 日々の保育を振り返り、良かったことは継続して行い、反省点は次の日に他の方法でやってみよう心掛けることができた。
- 子ども達の注目を集めたい時に、注目を集めるだけでなく、その時に行う手遊びやパペットなどを楽しく行うことを意識した。自然と子ども達が興味を持ってくれるようになり、心に余裕を持って保育が出来る様になった。

【課題と思ったこと】

- 人見知りの子が多く、打ち解けるのに時間がかかった。
- はじめてのことを警戒する子たちにどうやって、安心させるか個人差の大きい場面でどう設定していくか…。
- オペレッタでは、準備は早くからしていたものの、子どもとの練習開始が遅くなってしまった。
- 日誌をよりよいものにする事がよりよい保育につながる為、保育の視点や考え方を伝えていくことが難しいと感じる。
- コロナ前に行っていた保育や、行事を思い出しながら、子ども達にたくさん色々な事を体験・経験をさせて、楽しいと思える・考える幅を増やしていきたい。
- 毎日の子どもと自分との対応を、日々振り返り、反省して次の保育に生かしていきたい。
- 活動によっては、余裕がなくなってしまうことがあるため、空いた時間には戸外活動で伸び伸び遊べる時間や、子ども達がやりたい！と思ったことを多く取り入れられるようにしていく。
- 余裕がないと、どうまとめようかという考えが出てしまうため、余裕をもって保育をする。

保育の在り方

こどもへの対応

- 健康と安全の対応
- 子どもとの信頼関係
- 保育者同士の協力・連携
- 支援を必要とする園児への取り組み

【目標・取り組み】

- 職員間での情報共有を心掛け、個性を大切にしながら一人ひとりにあった保育を行う。
- コミュニケーションを密にとり、報連相を徹底する。
- 一人ひとりに合った対応ができるよう専門的な知識も身に付けられるようにする。
- 子どもの気持ちを理解し、寄り添った言葉掛けや援助をすることで印来関係を築けるようにする。
- 常に笑顔と優しいまなざしで子どもに接し安心感や安らぎを感じ取ってもらえる様な言葉遣い、所作を心掛ける。
- 安全面や玩具の清掃といった環境を整える。
- 子ども達が毎日笑顔で過ごし、その日にあった出来事をお家でも嬉しそうに話してくれるような保育をする。
- 異年齢での合同保育の際には、一人ひとりに寄り添いながら、丁寧に関われるように心掛ける。

【よく出来たこと】

- 担任も含め他クラスの先生やパートの先生とも園児一人ひとりの健康状態や、連絡事項などの情報共有ができた。
- もれのないよう報連相を伝えることができた。
- 個別の対応が必要な子が多かったので、色々な本を読んだり聞いたりして色々な方法で関わる事ができた。
- 子どもに寄り添い、子どもの気持ちに共感する事ができた。
- 一人ひとりの子どもの変化に応じた言葉掛けと穏やかに接することで安らぎを与えられる接し方に努めた。
- 午睡時には園児一人ひとりの対応の違いを理解し、成長過程に応じた取り組みを実践できた。
- 新年度は新しい環境の中で緊張や戸惑いを感じる日々だったが、子ども達も少しずつ環境に慣れ始め、すすんで話かけてくれるようになった。
- 笑顔がたえず信頼関係を築くことができた。毎日、降園前にはその日の楽しかったことを振り返り、充実した日々遅れた。
- 落ち着いた雰囲気の時や、少人数の時などは一緒に遊びの中で見守ったりバタバタして落ち着かない時には、俯瞰で全体を見守ったりと、その時に応じた対応をした。

【課題と思ったこと】

- 園児一人ひとりの健康状態を保護者から聞いたうえで、保育を行うものの日中の状況を細かい所まで保護者に伝えることができていなかった為、今後はしっかりと細かい部分まで伝えられるようにしていく。
- 1年間、精一杯関わったが、正解を導き出すことが難しかった…。
- 子ども達の気持ちを切り替えられような、促しを頑張っていきたい。
- 子ども達の気持ちを理解しつつ、次の活動や遊びに繋げられるような関わり方や声掛け方法を色々行っていきたい。
- 日常的に使用する玩具等を清潔に保つ取り組みは、おおむね実行できたが、子ども達が気に入った玩具の修理・補正などに取り組む時間を作ることが難しかった。
- 今後も子ども達との信頼関係を大事にしながら、日々の保育を行っていき、困ったこと、何かあった時には先輩や上司に相談し、対応していく。
- 登園児や午前の保育の様子は、午睡後の寝起きや機嫌の良し悪しに繋がっていることも多いので、職員同士で連携をとっていく。

保育者としての 資質と能力

- 専門家としての能力・姿勢・義務
- 組織の一員としての在り方
- 保育の楽しみ・喜び

【目標・取り組み】

- 子どもの個性や、クラスの雰囲気などを大切にし、それに応じて対応する。
- 子どもの興味を引き出せる様な保育を心掛け、子どもと一緒に楽しんで保育する。
- 保育者としての自覚をもち、自分の考えを明確にして相手に分かりやすく伝えられるようにする。
- 子ども達の様子に気を配り、普段の保育を振り返り、見直し、次に活かせるようにした。
- 自らの保育を常に振替英莉、反省を行い、次の保育に生かす。
- 子ども達の成長した姿を保育者間でも共有し、やりがいを感じながら、自分自身も楽しんで保育を行う。
- 個性や発達段階を把握し、常に問題意識と前向きな対応を心掛ける。
- 子どもの成長をしっかり感じ、見抜き、共に喜ぶこのできる心の余裕をもって保育にあたる。
- 子どもの興味に合わせて、保育教材を作り、保育に取り入れていく。

【よく出来たこと】

- 玩具の取り合いやひっかき、噛みつきも少なく落ち着いて過ごせることが多かった。
- 子どもの日々の成長と、先生方の日々の考えや目標を聞くことができ、子どもと一緒に喜びや感動をすることができた。
- 振り返り、見直しをし、次に活かすようにした。
- 子ども達と一緒に身体を動かしたりして沢山笑って一緒に楽しむことができた。
- 疑問に思ったことは、すぐに他の保育士に聞くことができ、問題を解決する事ができた。
- 学年で活動する事が多かったため、クラスを超えた子ども達同士の関わりが良く見られた。
- 自分にできる事を常に探し、実行していく。
- ピアノが苦手なため、研修に行き、出来ることを増やした。
- 日々の子どもの発達の変化を記録しながら、保育の振り返りを心掛け、見通しを立てたり、課題に気付くことができた。
- 共に感動したり、共感できる、余裕をもった接し方が出来るよう心掛けた。
- 子ども達の興味のある教材を作り、積極的に保育に取り入れた。
「はたらくくるま」や「ふうせんのうた」は歌だけでなく、クイズにして行い、色々な演方をする事ができた。また、タオルを使ってタオル遊びをして、身の回りのものですぐにできる遊びも行うことができた。

【課題と思ったこと】

- 異年齢の合同保育では、良い事も悪い事も真似してやりたがったりすることが多い。同じ事でも、年齢によっては危険になったりする事もあるので留意したい。
- 言葉遣いでは、強い言い方になってしまうことがあった。
- 視野を広げて様々なことに敏速に対応できるようにする。
- 1度の研修で満足せず、練習をしていく。
- 子どもの把握状態等の保育者間での聞き取りや連携を更に大切にし、より良い保育の実践につなげていきたい
- 保育教材だけでなく、身の回りのものを使って遊びにする発想を大切にしていきたい。

保護者への対応

- 情報の発信と受信
- 守秘義務の遵守
- マナー・心構え
- 要望への対処の仕方

【目標・取り組み】

- 園児の園での過ごし方を、保護者の方に丁寧に話し、保護者の方も話しやすい雰囲気を作る。
- 一人ひとりの子どもの成長、日々の様子を伝えていき、より一層信頼関係を深めていく。
- 自分から声をかけ、話しやすい雰囲気を作ると共に、良い気付きを沢山伝える。
- 丁寧な言葉掛けや対応を心掛ける。
- 寄り添いながらも適度な距離感を守り、信頼関係を築いていく。
- 間違えた情報を伝えないよう、しっかりと確認を行う。
- 笑顔を中心掛け、自ら挨拶をすることを意識していく。
- 園児の成長を分かりやすい言葉で伝え、安心感を持ってもらえるように積極的に関わりを持つ。
- 連絡ノートや直接会った時の会話等、言葉遣いや話し方に十分に気をつける。
- 送迎時の短い時間でも言葉を交わし、より信頼関係を築けるように挨拶＋一言を大切にしていきたい。
- 保護者とのコミュニケーションをしっかりと行い、連携を図る。
- 些細な事でもこまめに伝え、コミュニケーションを沢山とっていく。

【よく出来たこと】

- 排泄面では、園と家庭とで連携し、園児の成長を促すことができたと感じた。
- トイレトレーニングの進み具合や子どものなどを話し、保護者の方と信頼関係を深めることができた。
- その日あった出来事を、その日のうちに伝えるようにした。
- 子ども達だけでなく、保護者目線で考えていき、マナーや心構えを持ち対応に努める。
- 月日を重ねるごとに親しくなりつつ、初心の心を忘れず関わっていくことができた。
- 笑顔で自分から挨拶をすることができた。
- 日々の様子は勿論、子ども達の頑張りや成長した姿を伝え、喜びを共有したり、家庭で取り組んで頂きたい事も伝えることが出来た。
- 迅速な対応や、保護者に寄り添うことができた。
- 笑顔で明るく挨拶をし、一言を大切にするように心掛けることができた。
- 黄色歩きやエンゼルで積極的にお話をする機会を設けることができ、園児の良い所を沢山話せた。
- こまめにコミュニケーションをとり、様子を伝えることができた。

【課題と思ったこと】

- 園での様子を細かく伝えることを大切にしていく。
- 上手く伝えられたか分からなかった…。
- 全ての保護者へ同じ情報量で発信していく。
- 保護者に聞かれたことに対してすぐに答えることが出来なかった…。配布物などをしっかりと読み返していく。
- 保護者との関わりは少なかったが、送り迎えの時やお誕生日会の時などもっと積極的に声を掛けられたら良かった。
- 送迎の時間帯によっては、お会いできない保護者もいたりして、すこし偏りができてしまったように感じる。
- 黄色歩きと通園バスの保護者によっては、偏りができてしまったように思える…。
- お迎え時、保護者の方が不安で帰られることのないよう、先生同士で連携、確認をしっかりとる。
- 通園バスを利用されている保護者の方と直接話す機会がなく、れんらくノートや電話になってしまう…
- その日の出来事を伝えきれずになってしまうこともあった。

<h2>研修と研究</h2>	<ul style="list-style-type: none"> □ 研修と・研究への意欲・態度 □ 保育士としての専門性に関する研修・研究 □ 今、自分に必要な課題に関する研修・研究
<p>【目標・取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 保育士として必要なことを身につけられる様、興味のある研修に取り組む。 □ 発達の差があるので、保育の工夫が出来るよう、研修に行ったり研究をしていく。 □ 社会事象や時事問題にも関心を持ち、保育従事者としての知識や自覚を深める。 □ 自分の興味のある研修に参加していく。 □ 研修で学んだことを保育に実践できるように記録をしっかりと取り、保育者間で共有する。 □ 子ども達にとってより良くなるためのことをしっかりと学ぶ。 □ 疑問に思ったことをそのままにせず、研究する。スキルアップの為の研修を受ける。 □ 子ども達の運動機能が発達するような、リトミックや運動遊びなどを意識的に取り入れていく。 □ 常に新しい情報を得られるように向上心を持つ。 □ □ 	
<p>【よく出来たこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ キャリアアップ研修に参加することにより、他の園の先生方のアドバイスを沢山聞くことができた。 □ 発達の差がある中で、他の子が制作などをしている間、保育補助の職員がいてくれることで、1人対応ができた。 □ 子どもを取り巻く社会事象などにも関心を持つことが出来た。 □ 自分が子ども達と楽しむことを意識し、研修で学んだ事を活かす事ができた。 □ 保護者間でも情報共有をこまめに行い、その子にとってより良い保育生活や活動を行うためにはどのようにしたら良いかを一緒に考える事ができた。 □ 研修に行ったり、調べてみたりと進んでおこなっていった。 □ 保育に関することをインターネットで調べ、少しずつ見るようになった。 □ リトミックやサーキット遊び（肋木・マット・トンネル・巧技台等）の運動遊びを沢山行い、隙間時間をみつけてホールで走って沢山身体を動かす事など意識的に行っていくことが出来た。 □ 現在の保育事情を理解し常に自分の考えに補っていき、保育士としての専門性の研修を受け学び続ける。 	
<p>【課題と思ったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1つの研修しか受けることが出来なかった為、他の研修も受けてみたい。 □ 発達に関しての研修に行くことができなかった。 □ 発達段階における接し方の細かい取り組み方を精査し積極的に保育者間に働きかけ、疑問などを解決し保育に生かしていきたい。 □ 発達支援の面で考えると、次の学年でも気になる子や支援が必要な子が見られるため、個々にあった対応の仕方や保育に取り入れていけることをもっと学んでいきたい。 □ 子ども達が主体的に様々な事に挑戦していける様な保育内容を考え行っていくこと。 □ 研修に1つしか行けなかった。もう少し研修が受けたらいいと思う。保育に関することをホームページなどを見ているいろいろな方の意見や考えなど学べるようにする。 □ 個人差も大きく走るのもままならない子もいた為、個々への対応やクラス全員が楽しめる内容にすること。 □ 研修で得られた知識を他保育者に広めていくこと。 	

以上